

一般社団法人 日本ディープラーニング協会

Ver. 7.93

Apr. 2018



Japan
Deep Learning
Association

設立目的

**本協会は、ディープラーニングを中心とする技術による
日本の産業競争力の向上を目指します。**

そのため、ディープラーニングを事業の核とする企業および有識者が中心となって、産業活用促進、人材育成、公的機関や産業への提言、国際連携、社会との対話 など、産業の健全な発展のために必要な活動を行っていきます。

1. 産業活用促進

- カンファレンスやワークショップ等のイベント開催(主催・共催・協賛等)を通して、産業応用事例や導入課題と対策等、産業が必要とする情報を提供します。また、分野ごとのワーキンググループを設置し、分野特有の課題(技術課題や法的課題等)を整理し、解決を目指します。

2. 公的機関や産業への提言活動

- 業界の健全な発展と倫理的側面を考慮し、行政・立法等の公的機関および産業界に対し、提言を行います。

3. 人材育成

- ディープラーニングに関する知識を有し、事業活用する人材(ジェネラリスト)と、ディープラーニングを実装する人材(エンジニア)の育成を目指します。各々に必要な知識やスキルセットを定義し、資格試験を行うとともに、協会が認定した事業者がトレーニングを提供します。

4. 国際連携活動

- ディープラーニングの社会実装における倫理的、法的、社会的課題に関して、国内外の関係機関と連携し、議論に参加することで、海外の取り組みや考え方を国内に発信し、また国内の活動を海外に発信します。

5. 社会との対話

- 「人工知能」と総称され、現段階でできることとできないことが曖昧になることで、過剰な期待や過大な心配が社会に生まれつつあります。情報発信や社会との対話を目指す活動を通し、ディープラーニングに対する理解を促進します。

協会会員

(2018年3月26日現在)

正会員

- ・株式会社ABEJA
- ・株式会社クロスコンパス
- ・株式会社IGPIビジネスアナリティクス & インテリジェンス
- ・エヌビディア合同会社
- ・株式会社GRID
- ・株式会社STANDARD
- ・株式会社ディープロコア
- ・株式会社ブレインパッド
- ・株式会社FiNC
- ・株式会社PKSHA Technology
- ・株式会社UEI
- ・株式会社ZERO to ONE
- ・株式会社シンギュラリティ

有識者会員

- ・浅川伸一(東京女子大学)
- ・岡谷貴之(東北大学)
- ・巢籠悠輔(東京大学)
- ・松尾豊(東京大学)
- ・藤吉弘亘(中部大学)
- ・江間有沙(東京大学)
- ・尾形哲也(早稲田大学)
- ・中嶋浩平(東京大学)
- ・山下隆義(中部大学)

賛助会員

- ・トヨタ自動車株式会社
- ・フューチャー株式会社
- ・株式会社丸井グループ
- ・西川コミュニケーションズ株式会社
- ・株式会社ジェイテクト
- ・Automagi 株式会社
- ・株式会社富士ソフト
- ・株式会社安川電機
- ・株式会社Preferred Networks
- ・グーグル合同会社

・企業名はアルファベット表記順、個人名は五十音順表記。
・「」は「設立時会員」

2016年よりディープラーニング懇談会として協会設立に協力をした会員として、「DLを核たる事業」としていない会社も含まれています。

< 産業活用促進委員会 > 活動

産業でのディープラーニングの活用を促進するための各種活動を実施。
下記分科会にてプロジェクトを実行。

Ⅰ ディープラーニング市場調査プロジェクト

- Ⅰ 課題: AI市場は数々のレポートがあるが、ディープラーニングの市場規模や人材需給についてのファクトとなるデータが無い

Ⅰ 産業活用ガイドブック出版プロジェクト

- Ⅰ 課題: なかなか事例が開示されていないディープラーニングの活用。 G検定の端緒である産業活用できる人材育成の為、教科書的な書籍が存在しない。

Ⅰ AIデータ契約ガイドラインへの提言プロジェクト

- Ⅰ 課題: AI関連の取り組みについての契約のありかたはどうあるべきか。検討し、経産省実施の検討会へ提言。

Ⅰ 高確度マッチングイベントプロジェクト

- Ⅰ 課題: 互いの知見が足りずに実施されないことを解消。社会実装するために「実験」を越えて実施できる高確度なマッチングの実現。